

選んだ道

自己紹介の時、説明せずとも理解されるのは役職である。大学学長とか、日本カトリック大学連盟会長とか、国際ロータリー2760地区財団委員会平和フェロニップ委員会副委員長とか、組織内の役割なら、大抵の方はそれなりのイメ



南山大学学長 ミカエル・カルマノ 22

ージを持っている。しかし、なると、どうもうまく説明できない。ドイツ人なのに何故日本の

大学で教育学を教えている。私は1975年の3月、カトリック教会の神父として一生の役割を果たしているのか、つまりカルマノが個人として選んだ道の理由に

(連載の第13回参照)、それは、私個人の決断であった。

うまく言葉で表現できない

して同年の9月にカトリック教会の神父となる「司祭叙階」を受けた。修道会や教会において私はいくつかの役割を果たしているが、元々この道に入ったために結婚しない者もいる。これを受け入れることのできる人は受け入れなさい。」(マタイ福音書19章12節)

たサラリーマンは大変であった。彼らに形容詞の語尾変化のルールを教えてもらってなるほど、と思うこともあったが、毎回のようにならぬのか」と聞かれて、「皆そう言うから」としか答えられなかったことはちょっと辛かった。

英語でこのような決断は「Vocation」、すなわち「神に呼ばれて仕事に従事する」という言葉で表現されているが、これは必ずしも説得力を持つ説明ではない。一つのイメーツとして「結婚」一人とではなく、一生涯神様と結婚している

は正しい発音とキーワードの感情的なイメーツであって、文法の説明ではなかった。楽しいバイトであった。しかし、会社に命じられてドイツ語を学びに来たサラリーマンは大変であった。彼らに形容詞の語尾変化のルールを教えてもらってなるほど、と思うこともあったが、毎回のようにならぬのか」と聞かれて、「皆そう言うから」としか答えられなかったことはちょっと辛かった。

自分のことであればあるほど説明できないのだと痛感させられたものである。



司祭叙階に来日した両親と妹